
夜の服着た天使

仕神けいた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜の服着た天使

【Nコード】

N9020A

【作者名】

仕神けいた

【あらすじ】

ヒトは誰しも生かされて、だが輝くときは一瞬で……。僕はヒトの輝きが好きなんだ。うらやましいから奪うんだ。命の炎が尽きるとき、僕はお前の前に現れよう。

ニンゲンは、だれも僕が存在に気づかない。

朝も、昼も、夜さえも忙しく生きている。

理性に固められ、自らの鎖で拘束し、死ぬまで自由を許されない。
自分で生きているんじゃない、自分で自分を生かしてる。

けれどもそんなニンゲンも、ほんの一瞬だけ見せる。

最後の力を振り絞りニンゲンの儚い命の輝きを。

僕はニンゲンは好きじゃない。

最後の輝きだけは、好き。

だってそれは、幸福。

だけどそれは、悲哀。

そしてそれは、恐怖。

その輝きはどれも、最後の最後に見せる、生きている証。

僕はその輝きが好きで、うらやましい。

だって僕はヒトじゃない。

そして、だからこそ奪うんだ。

とてもきれいな揺らめきを、集めて飾ってずっと見る。

ずっと今までそうだった。

そしてずっとこれからも。

「あなたはだあれ？」

ある日、どこかの遊び場で、小さな子供が僕を見た。

僕の姿が見えるのか？

「あなたのカツコ、不思議だね。まるで夜のおほしさみたいなの色」

お前もなんだか不思議だな。今まで僕を見たニンゲンは一匹もいなかった。

「わあ、あなたの笑顔ってとっても優しいのね」
くるくるくると回って踊る。

僕にその意味はわからない。

「あなたはとっても不思議ね。そう、きっとあなたは夜の服着た天使さまね」

テンシ？ それも不思議な響きだな。

「ユウをおむかえにきてくれたの？」

ユウ……それがお前の名か。

ユウはじつとこちらを見続けた。

お前は迎えを待っているのか？

「ユウね、もうすぐパパとママがおむかえにくるの。でもね、ユウはあなたにつれてってほしいな」

僕にはなんだかわからない。迎えはそんなに嫌なのか？

ユウの瞳は泣きそうで、けれどもキラキラしていて綺麗だった。

「あはは、ユウはあなたが見えるのに、あなたの声は聞こえないの。ごめんね、ユウ一人じゃべっててつままないね」

いや、僕にはお前の声が聞こえる。つまらないはない。

「やっぱり、あなたの笑顔はともきれいなね。お名前が聞ければいいのね」

ユウはそつと僕の手に触れた。

どうしてだ……？

「こんなにちゃんと手をつなげるのにね。声だけ聞こえないのさみしいね」

どうしてだ、どうしてニンゲンに触れられる？

「ユウちゃん、お迎えきましたよー」

「あ、ママ。パパ」

ユウは遊び場の入り口を見る。

あれがお前の生みの親？

「お迎え、きちゃった」

ユウの顔は寂しげになる。

「また会えるといいね」

……そうだな、僕もまたお前に会ってみたい。

「あのね、私ユウっていうの。また会えたらお名前教えてね」

『ああ、名前か。今度考えておく』

ユウは、にこつと笑う。

「へんなのー。お名前は生んでくれたパパとママがつけてくれるんだよ。じゃあ、またね！」

ユウは小さな手を一生懸命振りながら去っていった。

——へんなの。お名前はパパとママが——

……僕の声が聞こえたのか？

ユウの去った方を見る。

お前はいったい何なんだ？

気づけば僕は、ユウの後を追いかけていた。そう遠くは離れていなかった。

花壇の並ぶ歩道を、女の親に手を引かれながら歩くユウ。追いかけるながら、僕はすぐに悟った。

あれが生みの親であるはずない。
見えるはずの血の繋がりが、あの三人には見えていない。
もっ少しで追いつく。

——ユウをおむかえにきてくれたの？

僕は、お前にとって何に見えた？

——でもね、ユウはあなたにつれてってほしいな

どうして僕に求める？

三人が止まった。そして、なぜか僕も。

『ユウウウウウウッ！！』

どうして叫んだのかわからない。
そしてその瞬間、僕は初めて時というものを感じた。

歩道と車道を隔てる細長い花壇。ユウはそのへりを器用に歩いた。
た。

女がトンと軽く、ユウを押す。
よろけたユウは、押されたままに横へ転び、車の通る道に出た。
目の前を巨大な車が走っていった……鈍い音と一緒に、小さなユウを空に高く舞い上げて。

——夜の服着た天使さまね

ああ、そうか。お前の言うとおり、僕は天使かもしれない。

ユウはもう、こちらを見てはいなかった。

僕の立ってる足元で、ただ、じっと空を見ているだけだった。

お前のために、名前を考えなくてはいけなかったのに。

ユウの周りにニンゲンがどんどん集まってくる。

どれもが僕を見ていなかった。

なにもがユウの輝きを見ていなかった。

不思議だな……命の尽きたあとで輝くなんて。お前の輝きだけは今までのどれより綺麗だ。見えないやつらは哀れだな。

——あなたにつれてってほしいな

ユウが夜の服と言ってくれた。

僕はその裾で、そっとユウの輝きを包み込む。

勝手に騒ぐニンゲンに、これは絶対渡さない。

誰も見えない輝きを、僕は奪って立ち去った。

やがて夜が近づいて、僕の集めた輝きが、一つ二つと見えてくる。

空に近い丘の上、僕は空を見上げてた。

……そうか、お前は一度、空を舞っていたな。

昼間のことを思い出す。

既に舞い終えた空なら退屈か。それに一番綺麗なお前を、あれらと一緒にしてしまうのももったいない。

僕はじつとユウを見る。

僕とずっと一緒にいるか？

ユウはキラキラと輝いた。

僕もなんだかうれしいよ。

そうだ、名前を考えたんだ。
ユウにだけは教えるよ。

僕の名前は――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9020a/>

夜の服着た天使

2010年10月11日21時55分発行